

人権あれこれ

「障がい」って何だろう？

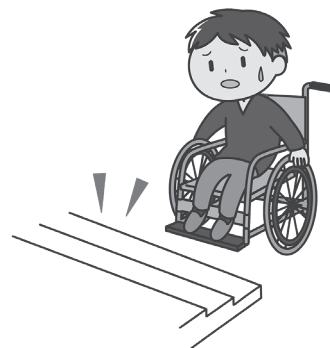
現在、鳥取県では県民のおよそ 1 割、10 人に 1 人が、何らかの障がいがあると言われています。障がいのある人が身近にいて当たり前の社会に、私たちは暮らしています。

障がいのある人の中には、社会で当たり前に参加できる場面から遠ざけられ、制限を受けるなど、さまざまな不利益を被っている人がいます。障がいのある人もない人も、ともに学び、働き、暮らしやすい社会の実現のため、「障がい」のこと、そして「人権」について、次の状況から考えてみましょう。

こんなときどうする？みんなで考えよう！

Aさんは足が不自由で、普段は車いすを使って移動しています。そんなAさんは、この春、別の町に引っ越しをしました。職場への通勤には、電車が便利ようです。

そこで、Aさんは事前に最寄りの駅の様子を見に行ったのですが、駅のホームに行くには階段しかなく、移動を手伝ってくれる駅員さんいません。Aさんはホームに行くことができませんでした。



Aさんがホームにたどり着くことができなかったのはなぜでしょうか。次の2つの側面から考えてみましょう。

① ホームに行けないのは「Aさんの足が不自由だから」と考えると…

問題の原因はAさんにあり、問題解決の責任や努力は本人に強く求められるようになります。

⇒障がいのある人が直面する問題は、その人個人の問題？

② では、Aさんを取りまく周囲の人々や環境（社会の様子）に注目して考えると…

ホームに行けないのは、「世の中には車いすを利用しているAさんのようにさまざまな人が生活しているにもかかわらず、一部の人（歩いて階段を上がる人）だけが利用できるような社会環境をそのままにしているから」と捉えることができます。問題の原因を社会の側から見つめたとき、社会が障がいのある人の参加の機会を制限している部分が多いこと、だからこそ、周囲の人々や社会の果たす役割が多いことが分かります。

⇒障がいのある人が直面する問題は、その人が暮らす社会の問題！

「障がい」は、周囲や社会とのかかわりの中で生まれます。周囲や社会の側が変わることで解決できる問題はたくさんあります。社会の側にある問題に気付いて初めて、その問題は障がいのある人が抱えている問題から、社会の問題、つまり「みんなの問題」になります。

(参考) とっとり人権情報誌「ふらっと」

..... 3月の行事予定

◆生け花（草月流）

日時：3月26日（土） 午後1時30分～午後4時
場所：下榎集会所 / 講師：生田清子さん

◆いきいき百歳体操

日時：3月3日、10日、17日、24日、31日 毎週木曜日 午後1時30分
場所：老人憩の家

※どなたでも参加できます。お気軽にお越しください。詳しくは、下榎隣保館（電話 72-1191）までお問い合わせください。

農業委員会だより No.91

新年のごあいさつ

日野町農業委員会 会長 長住武美

皆様には、健やかに令和4年の新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、コロナ禍も3年目となり、オミクロン株の感染が鳥取県でも急速に広がっています。皆さんも十分気を付けて行動してください。このウィルスの感染拡大は、農業にも大きく影響を及ぼしています。感染対策をしながらの農作業、そして食生活の変化や人口減少で下落傾向だった米の国内需要に、感染対策のための外食の自粛などが米余りに追い打ちをかけ、米価の下落を招きました。

そのような情勢の中、昨年「日野町がんばる地域プラン」の取り組みの一環として、各集落を訪問しました。地域一体となって話し合うことで、守るべき農地と、農地から除外する農地を見極めて、集落としてまとめていただきたいと思っています。そして、集落や地区を対象とする地域集積協力金や農地整備・集約協力金など各種補助金を利用して、

守るべき農地を維持していきましよう。また、地域の将来の農地利用を担う経営体を対象とする支援として「先進的農業経営確立支援」や「地域担い手育成支援」、「農業次世代人材投資事業」などもあります。

集落訪問時のアンケートによると、農業従事者の平均年齢は70代で、「今後5年は耕作できるが10年は難しい」との回答が多くありました。ぜひ、「アグリサポートひの」を活用して作業の負担を軽減し、長く農業を続けていきましよう。

また、昨年は農業委員会と町が一緒になって、初めて水路点検を実施しました。豪雨



災害の後始末がまだできていないところや流木が引つかかったままの状態など、水路の維持管理の難しさを痛感しました。今後の取り組みを集落や町と共に考えていかなくはなりません。

堆肥散布や各種苗代の補助等、日野町独自の支援制度もあります。これらを上手に活用して、農業を将来につなげていきましよう。そのためには、農家の皆さんはもちろんのこと、町や農業関係諸団体と情報交換を密接に取りながら、農地利用の最適化の推進に取り組まなければなりません。今後ともご協力とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びにかえて、新しい年が皆さまにとって実り多い年になりますよう、心から祈念申し上げます。新年のあいさついたします。

農地のことで困りごとはありませんか？

- 長年作っていない畑を何とかしたい。
- 田んぼを作ることができなくなった。代わりに誰か作ってくれる人はいないだろうか？ など

農地のことでお困りのときは、お気軽に農業委員会（電話 72-2103）までご相談ください。

